



人と動物の問題における支援方法

オンラインセミナー5講座中第3回
2023(R5)11月25日開催

ワンウェルフェア「人と動物の問題対応」スキルアップ研修より

(一社)ワンウェルフェア監事
NPO ねこだすけ代表理事

工藤久美子

「人と動物の福祉」と謳う以上、ペットも同様に考える、少なくともペットの生存方法を考慮しておく、それが目指すべきゴールではないでしょうか。

然し乍ら、人と動物の福祉に於いては当然ながら大きな違いがございます。

1. 人の福祉

介護保健のお陰様で、人への支援体制、これはとても充実していると感じます。

・地域自治福祉。・町会、民生委員様。

この町会と言う自治組織の働き、役目はとても大きいです。同様に民生委員様の働き、見守り体制、この二つが大きな地域福祉の基本と思います。

・公共福祉。

ケアマネジャー、ヘルパー、訪問リハビリテーション、訪問医師、看護師、訪問歯科医、また施設に出向くディサービス、宿泊のショートステイ。たくさんの方が用意され、実際に介護をしていた私自身も、素晴らしい支援体制、と驚きました。

また最早自宅での生活は困難、となった場合でも何らかの施設入居、これが可能です。

つまり人は、自立した生活が不可能となっても行き先が必ずある、確保されているのです。

2. 動物の福祉

ペットについては、介護支援体制の中にもまるで組み込まれていません。その為、厳密に言えば介護、福祉の方々がペットの世話、猫のトイレ掃除など行うことはできません。

ペットについては、2つの方法しかありません。

ペットホテル、動物病院などに預ける。或いは、親族や友人に預ける。ペットシッターにお世話に自宅に通ってもらう。つまり、預けるかお世話に

来てもらうか、このどちらかです。この方法はいずれもかなりの費用を必要とします。

3. 残されたペット、一つの例。

賃貸住宅にお住まいのご高齢のお一人暮らしの女性、ご病気で入院となり高齢者相談センター職員からご相談がありました。

結局、2ヶ月余りお部屋に残された13歳の猫1匹のお世話、その間、時間がありますので、部屋の片付け、ゴミ捨て、清掃も行いました。猫は1匹ですし、動物ボランティアとしてはさっさと自宅に連れ帰りお世話をする、そして譲渡先を探す、この方法が一般的、多頭ならいざ知らずたった1匹ですから、それも可能と思います。

しかし、私が目指している事、福祉職、動物愛護の分け目なく皆さんで協力し合い、解決法、譲渡先探しなど行う事、この実例の為にも、私は保護せず、お世話に通いました。結局福祉職の方々が譲渡先を見つけてくださいました。素晴らしい里親様で、本当にありがたく感謝しております。

・教訓。

たった1匹でもこの騒動。この経験を通し、感じた事。

早急の保護は控える。他の方法を福祉職の方々と共に考える。人の福祉と動物の福祉を分ける事なく、同じ問題として解決を目指す。ここに焦点を当てたいと痛感しております。

4. 多頭飼育の場合

住居面積などにもよりますが、およそ猫3匹以上は多頭と個人的には捉えております。この対応策は、1匹の場合も同様です。

・事前察知、予防。1匹を見逃さない。

これに焦点を絞れば、行うことは自ずと見えてきます。



ご近所の目、訪問する方の目、福祉の方々が訪問されるのであればその方々の目。猫であれば 1 匹でもいれば、不妊去勢手術の有無、入院時などの預け先の確保、少なくともこの 2 点は確認が必要です。

その際の簡単なチェックシートの用意、その情報を必要であれば保健所など担当部署と情報共有、何らかのお手伝い、不妊去勢手術が必要であれば、ボランティアに連絡し病院の手配、猫の搬送などを相談する。1 匹、2 匹のうちにこの不妊去勢手術と、飼い主様の入院時など緊急事態の預け先、最低この 2 点を押さえておけば、その先のもしもの事態にも対応が可能となります。

・すでに多頭の場合。

すでに多頭飼育、飼育困難のケース、これは実に難題でございます。どのケースも福祉部署、動物部署職員、動物ボランティア、親族様がいれば、ご一緒に話し合いを行います。

・ご自宅所有の場合。

このケースでは、飼い主が入院となってもその間にご自宅にお世話に通い、譲渡可能な子から譲渡していく。

・賃貸の場合。

いつまで賃貸でいられるか、その状況に大きく左右されます。賃貸が不可能となった場合に備え、猫の保護先の確保が必要。動物ボランティア、福祉職、動物職、全員でチラシ制作、ポスティング、町会、動物病院、知人友人など保護譲渡先募集の広報を行います。大切なのは、関係者皆さんで相談しながら、ご一緒に進めて行く事。

参加者が多ければ多いほど、保護譲渡先確保の可能性が高くなります。

5. 定期的な会議

例えば半年に 1 回。福祉職の方々、動物職の方々、動物ボランティアの三者会議の開催。この会議開催により、

・**動物に関しては**、福祉職の方では気付かない問題、危険性が浮上する、つまり早急に発見、防止が可能となります。

・**1 匹だから問題が無いと思わず**、何も聞かずにいたら、いつの間にか 5 匹になっていた。出産ではなく、他からの猫を入れていたケースです。「これ以上は無理だから、もう猫は今いる猫以外は飼わないようにしましょうね。」などの常日頃のアドバイスが必要と分かります。

手術をしてあるから大丈夫、とは言えません。他に猫を飼い始める可能性、これを食い止めることも大切です。

・**入院時などの対応策も**、まだお元気だし若いから、と思わずお一人暮らしであれば、入院時の預かり先の確保、この確認。この様な事態のさらなる悪化防止の為に、小さなことでも早めの情報交換、これが要では、と感じております。

結論として、【3つのポイント】

- ・不妊去勢手術。
- ・身元の表示
- ・入院時など、いざという時の預かり先の確保。

その為には、

・**1 匹を見逃さない。チェックシートの活用。**
動物ボランティアの立場としては、この 3 つのポイント。

その為に 1 匹を見逃さず、チェックシートの活用を福祉職の方々をお願いしたいと思います。